

やくの詩あらわす詩



2015年版

一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集

きよの詩あしたの詩



一般社団法人日本作詩家協会年刊詩謡集
2015年版

卷頭言

詩謡集委員会

委員長 たきの えいじ

四季折々の変化に恵まれ、育まれてきた日本の言葉。

たとえば、雨を現わす表現を取りあげても、さくら雨、五月雨、こぬか雨、にわか雨、夕立、小夜しぐれ、秋雨、霧雨、氷雨：等々数え切れない。月も風も、これ又地方地方での表現まで入れると数多く、世界に誇れる味わいに満ちている。つまり、微妙な季節の移り変わりや、暮らしに心の目を注ぎ、日本人は日本語を作りあげてきたのである。それらは勿論、時代と共に変化し、耳にする事のない言葉も今では多く淘汰されていく。しかし、歌の世界では、昔から培われてきた言葉がしつかり生きている。表現の濃度やニュアンスを伝える時、今もなくてはならない言葉達なのである。歌を描く上での情景描写や心理描写に於いて、視覚的に映る以外の、つまり、人間本来の嗅覚や聴覚や触覚をも駆使して、共に、言葉の表現の旅に出ていきたいと思っている。

卷頭言……………たきのえいじ……………

月の華	～忘れられなくて～	アーヴアン	沢井	一六
好きだから		藍川由那	慶子	一七
恋	蝉	相原利夫	一九	一八
夢千里		青木圭介	二〇	二〇
ねぶた浅虫恋の町		青木勇一	二一	二一
十三情話		赤池みつを	二二	二二
湯島夜の灯切り通し		赤坂あかぎ	二三	二三
嵯峨野哀秋		佳津子てるや	二四	二四
津軽雪語り		秋篠さと	二五	二五
上州しのび笠		秋原しぐれ	二六	二六
あの棒せは		秋原みまき	二七	二七
大死一番		穂山定文	二八	二八
葉桜のシンフォニー		麻木夢子	二九	二九
紅富士一羽がらす		浅倉美智子	三〇	三〇
本音		好詩永	三一	三一
海心歩		飛鳥美勇樹	三二	三二
民謡酒場		安倍暁	三三	三三
秘境		天野虎慧	三四	三四
北の一一番船		宮英子	三五	三五
季秋の宿		新井み	三六	三七
郷愁		荒木真	三七	三八
りんどうが泣いている				

団塊の世代							飯野芳明	三九
僕は恋原人							池上二郎	四〇
岩国夢慕情							生駒かつゆき	四一
かしまの一本松						石川桃瑪	四二	
退職はしたが—						石川ミホ	四三	
大阪恋しづく						市川武志	四六	
友よ						出原敏光	四五	
雪見障子						伊藤彰二	四八	
ひとり松島						伊藤久子	四九	
桜花に…妬ぶ						伊東ひろし	五〇	
人生廻り舞台						伊能裕允	五一	
醒ヶ井哀歌						伊武トーマ	五四	
放浪記「少女フミコ」					伊井みち	五三		
恩師					井ノ原英一	五五		
夢の甲子園					田舎栄	五六		
津軽おとこ節					田舎公美彦	五七		
昭和新宿歌舞伎町					田舎加代子	五九		
蒼い瀬棚のブルース					宇田和美	六一		
ひとりぼっちの人恋し					田山和樹	六〇		
岐阜つ子自慢の城下町					内山和美	六二		
翼に乗つて…					宇田和樹	六三		
八丈島おじやれ女恋唄					羽蝶天和美	六四		
女…かくれ宿					まいこ	六五		
かごの中に…								
道								
ふりむき街道								
湯沢七夕絵どうろう								

心の糸	莊川ざくら	雨上がり	雪月花	心の詩	輝く水平線	風紋	高砂	岐路	秋の傘	夫婦春秋人生行路	夢ん中	なみだ川	最終便	胸にきこえる赤子笛	みちのく港町	越前紀行	望郷花火	愛されて	白いレース糸(愛しくて)	雜踏の孤独	ああ帰りたい	恋あざみ	小悪魔な夜	幸せに乾杯
海里香菜	海野清一郎	理羅	円上行元	えんどう真実	大竹幸介	大前裕子	大山詩央	岡豊	小川	小倉幸重	小口幸実	小山内圭	織田まり	小野寺正悦	正明	海保正明	垣見幸伸	かがまさし	八四	八五	八六	八七	八八	九〇
宇里香菜	海野清一郎	理羅	円上行元	えんどう真実	大竹幸介	大前裕子	大山詩央	岡豊	小川	小倉幸重	小口幸実	小山内圭	織田まり	小野寺正悦	正明	海保正明	垣見幸伸	かがまさし	八四	八五	八六	八七	八八	九一
宇里香菜	海野清一郎	理羅	円上行元	えんどう真実	大竹幸介	大前裕子	大山詩央	岡豊	小川	小倉幸重	小口幸実	小山内圭	織田まり	小野寺正悦	正明	海保正明	垣見幸伸	かがまさし	八四	八五	八六	八七	八八	九二
宇里香菜	海野清一郎	理羅	円上行元	えんどう真実	大竹幸介	大前裕子	大山詩央	岡豊	小川	小倉幸重	小口幸実	小山内圭	織田まり	小野寺正悦	正明	海保正明	垣見幸伸	かがまさし	八四	八五	八六	八七	八八	九一

あら 四畳半	川 井 春 幸	九三
お墓参りに帰ろうか	かわいだ けんいち	九四
流星の涙	川 上 恵 子	九五
ふたたびの恋	川 上 左池子	九六
おやじの顔	かわじ ひろみ	九七
シリクロード幻想 〔絲綢之路物語〕	神 崎 陽一	九八
夢星人	岸 田 のぶや	九九
桜の駅	喜多條 忠	一〇〇
こぼれ花	北 村 冬	一〇一
ころ愛	木 村 賢 司	一〇二
あるさとのバス	京 一郎	一〇三
醍醐寺の桜	光 恵	一〇四
近江商人	えりこ	一〇五
長崎は風の街	京 一	一〇六
伏線	霧 野 ゆう	一〇七
たらちね恋歌	草 波 流沙	一〇八
夢待ち通り	久 仁 京 介	一〇九
人生三毛作	國 武 浩 之	一〇一〇
妻恋酒	枝 星 志	一〇一〇
カモメが哭いてる港町	藤 有道	一一一
富士五湖旅情	倉 皮 生	一一二
我が故郷よ	黒 崎 康 子	一一三
タンゴで燃えて	桑原 良 人	一一三
愛戀海峡	黒 川 良 人	一一四
遠い日々	小 串 波 夫	一一七
白いコンフェッショーン	高 坂 のぼる	一一六
哀愁の榛名湖	こじま かずみ	一一八

想い出通り雨	城岡れい	一四七
十六夜恋慕	城山正志	一四八
俺は三枚目	吹田晴也	一四九
ありがとう	菅野政義	一五〇
Pardon me	江香代子	一五一
しおりになかつたことに	杉田ひさお	一五二
しだれ桜	川信也	一五三
人生まつり唄	木紀代	一五四
「ひめかゆう」の花	木さとし	一五五
花暦	木はるか	一五六
摩天楼ララバイ	木康正	一五七
男花	木原茂幸	一五八
いま青春の舞い踊り	木東西	一五九
桟橋霧情	関根利子	一六〇
人生はふたりづれ	曾我幸義	一六二
かすみ草	田浦賢	一六三
重ね行く日々のために	田浦泰	一六四
貝寄せの風	城のぼる	一六五
愛のかけら	高須はじめ	一六六
恋つづら宿	高田れい子	一六七
待合室	高塚和美	一六八
奥能登慕情	高橋耕作	一七〇
宗谷本線	鷹梁恵一	一七一
道頓堀灯り	高橋敏夫	一七一
交通安全かぞえ歌	高橋直人	一七二
大地に生きる	美余子	一七三

それだけでもう恋	高畠 畑和之	一七四
ゆき子の小樽	高畠 じゅん子	一七五
恋 愛 港	高山 五郎	一七六
潮来恋唄	滝 大介	一七八
一踊り唄	多岐川 一介	一七八
希望の丘	たきの えいじ	一七九
敬老音頭	たくわん	一八〇
紙粘土のネットクレス	田島 隆夫	一八一
故郷	建石 一	一八二
さよならが見えなくて	田中 いぶき	一八三
北のひこばえ	田中 菜穂子	一八四
舞踏歌謡『櫻のお七』より	田中 ゆきを	一八五
他人のままで	たなか 伸	一八六
青い星降る故郷へ	多野 亮	一八七
硫黄島で戦死した兄の七〇年忌に献ず ジヤ。パニズ・ヒトラー	玉利 要	一八八
ある女と男の裏話	田村 忠雄	一八九
密会・ランプの宿	千草 三紀	一九〇
悦びの赤いバラ	茶々 一九一	一九一
愛 彩 花	津田 雅道	一九二
あい さい か	千草 三紀	一九三
浅草ぶらり	出 口 タヅ香	一九三
あの時から恋して	手 嘉 義文	一九四
忘れじの面影	島 幸 生	一九五
愛が重たい	天馬 良	一九六
三三九度をもう一度	桃仙 橋佳	一九七
おんなと涙	戸川 智砂子	一九八
風の実	時女 礼子	一九九

PEPPER		夏を乗り越えて	・	徳田勝男	・	110-1
そこはかとなく	糸あより	とだ	じょう	110-1	とだ	じょう
巨	のぞみ	とだ	じょう	110-1	飛田	多恵子
越前岬に雪が降る	のぞみ	とだ	じょう	110-1	富田	有子
希	のぞみ	とだ	じょう	110-1	外山尚子	110-5
虹立つ丘に鮎ひかる川	のぞみ	鳥羽貞子	110-6	鳥羽貞子	110-6	110-6
名づけて初恋	のぞみ	永井ひろし	110-7	永井ひろし	110-7	110-7
花の詫び詩	のぞみ	中咲結美子	110-8	中咲結美子	110-8	110-8
富岡・絹の里	のぞみ	長澤あきら	110-9	長澤あきら	110-9	110-9
売れつ娘芸者「冷や奴」	のぞみ	永田聖子	111-1	永田聖子	111-1	111-1
面構え	のぞみ	長塚京子	111-1	長塚京子	111-1	111-1
さくらみち	のぞみ	那須野巖	111-3	那須野巖	111-3	111-3
のさま	のぞみ	奈良有真	111-5	奈良有真	111-5	111-5
濟州ふたたび	のぞみ	鳴海徳一	111-6	鳴海徳一	111-6	111-6
粉雪しぐれ	のぞみ	難波伸安	111-7	難波伸安	111-7	111-7
渡り鳥北へ帰る	のぞみ	仁井谷俊也	111-8	仁井谷俊也	111-8	111-8
挫けないで若者よ	のぞみ	西井戸学	111-9	西井戸学	111-9	111-9
にんげん虫	のぞみ	西田	111-10	西田	111-10	111-10
花は枯れても	のぞみ	西平	111-11	西平	111-11	111-11
寄る年波	のぞみ	西脇照芳	111-13	西脇照芳	111-13	111-13
がんばろう早島（早島町の応援歌）	おや	西谷勝己	111-11	西谷勝己	111-11	111-11
人生にはむだはない	のぞみ	二瓶みち子	111-14	二瓶みち子	111-14	111-14
父親	おや	NO MOSS	111-5	NO MOSS	111-5	111-5
寒ブリ漁港	みなど	野沢冬子	111-6	野沢冬子	111-6	111-6
天命						

夢漁港	野島真行	一一三七
湯の街みれん宿	橋羽澤	本和郎
女の歳月	橋	本真寿美
北のあじさい	原	三三〇
恋女房	林	文伸
夫婦旅	原	二三一
哀しいひと	原	三三三
自惚れナミダ	原	一三四
おんなの北帰行	光	北文彦
泣いてしまいそう	遙	斗二
雨の桟橋恋しぐれ	美	五郎
我慢の噴火	山	斗三五
潮騒	肥	三六郎
清らな旅	田	一三七
俺の花手鞠	井	三八郎
古稀の恋	晃	一三九
紅い夕日の三度笠	輔	一三八
袖ヶ浜に魅せられて	歩	一三九
泣けちやう渡り鳥	果	一三九
そんそん尽くし	井	一四〇
回天	健	一四一
季節のページ	一	一四一
幻想上松節	二	一四二
アマンの想い出	三	一四三
恋の影法師	四	一四三
紅の川	五	一四四

一年暮らして	ふじわら 弘志	一五四
隠恋慕	文月 まさる	一五五
淋しい女の涙のしづく	F u m i k o	一五六
影法師	平誠 三朗	一五七
希	芳園寺 和光	一五八
歯舞海峡	星川 成一	一五九
深み 雪	堀 まさし	一六〇
女つて	梵天 丸	一六一
メツセージ	映二	一六二
槌音	真下 純	一六三
——菊池寛「恩讐の彼方に」より	一六四	
男道	楨井 真佐子	一六四
居酒屋「銀座」	松尾 江里也	一六五
美濃の恋歌	岡徳峰	一六六
日々好日	松野 捷夫	一六七
かたり酒	松原 かおり	一六八
てんてこ舞い音頭	高久	一六九
赤坂の夜	木原 摂子	一七〇
かりそめの唇	久里 賢介	一七一
落ち葉の手紙	円山 恵介	一七二
初めて大人の恋をして	真夏 深雪	一七三
みちのく酒場	丸山 八留男	一七四
花街情話	まんだ あつこ	一七五
母の願い	三浦 節子	一七六
みちのく酒場	三浦 正行	一七七
風木悲ひ	政和	一七八
妻恋鴉	三木 明子	一七九
遭難	美貴史 まさる	一八〇
水壁		

磐越西線ひとり旅

三里 こうじ 一八一

北暮色

水木 みずみ 一八二

積丹黄金岬

南 みね 一八三

雨の花が咲く路を

美手 けんじ 一八四

じいじとばあばの祈り

早苗 ゆきと 一八五

北の町

箕浦 しらべ 一八六

月夜の男

てる美 てるみ 一八七

ママの傘

箕山 しらべ 一八八

雨傘の森

水吹 すいぶ 一八九

十九の海峡

有間 ゆうま 一九〇

轍・男冥利に尽きまする

志郎 しらべ 一九一

四十年ぶりの恋文

宮内 たけし 一九二

花無情

宮崎 テルミ 一九二

まつえ(松江慕情)

宮代 よしはる 一九三

津軽恋し

三輪 好清 さちよ 一九四

屋形船旅情

武笠 和夫 一九六

炭

村田 るり 一九七

恋衣とその母

安達ヶ原鬼婆伝説より 桃山 夢一 一九八

香登の女

坂秀司 一九九

坊やのふるさと子守唄

矢嶋 たかし 二〇〇

寂しさ、受け止めて

矢野 売憲 二〇一

笑点

山甲斐 晶子 二〇二

花舞台

八卷 功 二〇三

ここはどこ?

（認知症の妻） 山口 泰孝 二〇四

悪い酒癖「おんなぐせ」

やました 貴美 二〇五

ころ模様

山田 早苗 二〇六

ひろしま・散歩道

山田 那津子 二〇七

歩いて下さい	山田	博康	三〇八
神通川	山本	ユリエ	三〇九
碎けたグラス	祐田	彰	三一〇
青い鳥	Y u k a	三一一	
北の海峡	ゆき	ちかげ	三一二
相生たずね橋	夢	ユメ子	三一三
伊勢志摩	由	梨恵子	三一四
ふる里ひとつ	ゆ	り花笑	三一五
権兵衛峠	吉井省一	一	三一六
テーラー先生の詩	吉田	すばる。	三一七
（ネッラ・ファンタジア）	R	よしだ	未來
望郷風の盆	I	達人	三一八
ほんまに好きやねん	E	人	三一九
ああ・しのび酒	連	達人	三二〇
木曾路哀歌	若芝	正夫	三二一
酔いどれ雀	若松	かつ子	三二二
気概	和久洲	正	三二三
恋紅葉	わだ	愛	三二四
瀬田の恋宿	綿木	義昭	三二五
夢半場	渡辺	蛍雪	三二六
愛の道連れ	渡辺	久士	三二七
泣いて北陸	わたなべ	泰彦	三二八
桜の下で	鰐村	免	三二九